

地域づくりの現在地 そして、ふるさとを未来へ

集落支援員を中心に取り組んでいる地域づくり。これまでの歩みや今後の活動について、コミュニティ組織やNPO法人、市民活動団体などの活動を支援する、とめ市民活動プラザの佐藤幸広さんに話を聞きました。

地域の活性化を目指し、 変わりつつある地域づくり

地域づくりが始まった当初は手探りだったので、それまでの地域行事を継続したり、他自治体の事例を参考にしたりして活動していました。その後、住民との交流や意見交換を重ね、現在では、地域ごとの状況や要望に応じて内容を見直すなど、集落支援員が中心となって特色ある事業を企画し、参加者が増えている地域もあります。

今後、持続可能な地域にしていくためには、若い人をはじめ、これまでコミュニティ活動に参加していない人にも積極的に関わって

もらい、その声を聞くことが重要です。市内では、その仕組み作りが徐々に始まり、学生や若い人たちも地域づくりに直接関わる形へ変わってきています。住民の皆さんは、そういう機会があれば、ぜひ参加していただき、思ったことや企画してほしいことを伝えてください。それが地域の活性化にはとても大切です。

ほかの誰でもなく、一人一人が地域をデザインする意識を持つて意見を出し合い、交流していくことが、少しずつ地域を良い方向へ変えていくのだと思います。



とめ市民活動プラザ
マネージャー
佐藤 幸広さん

Interview 地域づくり事業の参加者に聞きました



齋藤 義樹さん
瀬織 さん
(東和町米川9区)

貴重な自然環境の
魅力に触れてほしい

若者の視点で考え、
地域を盛り上げたい

佐藤 瑞希さん
(石越町新道)



職場の先輩に誘われて石越地区の若者井戸端会議に参加しました。同世代の仲間たちと事業を企画して、それが形になって、参加した人たちの笑顔を見るとやりがいを感じます。

高齢者が多くなってきているので、自分にできることがあれば手伝っていきたくと思っています。そして、これからも新しい視点で事業を企画して地域を盛り上げていきたいと考えています。

米川地区は、豊かな自然環境と人と人とのつながりが魅力だと思います。カブトムシに触れたり、釣りをすることは、昔は当たり前のことだったかもしれませんが、今はそういう機会がほとんどなくなりました。

こどものうちに「ふるさと」の良さを知るということは大切です。事業に参加することでの出会いや交流も貴重な経験になると思います。私も子どもと一緒に楽しめるので、これからも参加したいです。



種をまき、

地域を笑顔に

魅力ある地域づくりを進めていくためには、お互いが関わり合って、知恵を出し合いながら進めることが大切であり、それがふるさとを未来へつなげていく鍵となります。

人口減少はすぐに止めることはできませんが、仕方がないと眺めているは何も変わりません。人口が減っても何かできることは必ずあるはず。その「何か」を探して実践することは行政や集落支援員だけではできません。まずは地域に目を向けること。そして各地区の地域づくり事業などに参加することから始めてみませんか。

集落支援員がまいた、地域づくりの小さな種を大きく育てるのは皆さんです。一人一人が地域に愛着と誇りを持ち、行動に移すことで、その種は地域に笑顔という花を咲かせ、やがて実を結ぶことでしょう。

※次号から各地区の地域づくりについてシリーズで紹介します。